福岡県　天光園グループホーム　　平成２３年１月７日

平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501086		
法人名	社会福祉法人　天光会		
事業所名	天光園グループホーム		
所在地	福岡県大牟田市宮崎１１７０－３		
自己評価作成日	平成２２年１１月０５日	評価結果確定日	平成２３年１月７日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古１丁目６番４８号
訪問調査日	平成２２年１２月１１日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

大牟田市北部に位置する当ホームは、閑静な住宅地に隣接しており周辺は自然も多く、入居者の方々には落ち着く環境で穏やかな生活を送って頂けるのではないかと思います。併設である特養老人ホーム・デイサービス・小規模多機能・サテライト等と共に、夏祭り・運動会等多くの行事を楽しめるという利点もある。地域的にも顔馴染みの方が居られたり、又新しい出会いもあり人との温もりでの安心感と、母体特養という大器の中で、ゆっくりと守られている感が伝わるように努めております。他にも四季の変化でその時を肌で感じて「今を大切に」して頂く環境作りのお手伝いが出来ればと思います。現入居者ご家族の力添えも多く職員と共に皆様を見守り、揺るぎない時間を過ごして頂きながら家庭的な生活の支援を目指しております。健康面では、医療機関との連携を取り、痛みや不快感のない毎日を送って頂ける様、寄り添いながらケアに取り組んでおります。

天光園グループホームは母体法人の敷地内にあり、設立１０年目を迎えた。運営推進会議に参加している地域住民代表から、「高齢率が急速に進行する団地の高齢者には、遠い避難所より隣接の交流センターや母体法人に避難したほうが良い」との意見が出され、来春、消防署・地元消防団・自治会合同で防災訓練を実施する計画が協議されている。また、３月の団地の総会で、地域密着サービスについて説明し、ホームの見学会を開催している。参加者は、入居者の穏やかな暮らしや笑顔に接し、グループホームの存在が自分たちの安心に繋がりつつある。このような地域との交流の促進や入居者同士が誘い合ってトイレに一緒に行くことで、昼間は排泄が自立している入居者もあり、理念5カ条に沿ったケアを着実に実践している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**天光園グループホーム**

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念5ヶ条の中に取り入れており、各職員共有 事項として実行に努めている。	ホーム独自の理念を5カ条にまとめ、常に目にふれるよう玄関や廊下等共有空間の至る所に掲示している。会議では全職員は理念を確認し具現化をめざしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議が基となり、入居者の方への関心度も深まっている。自治会、施設間は行事等により交流が多くなっている。 地域からも生活状態を見学に来られた。	隣接する地域交流センターを活用し、地域との交流を進めている。中学生の職場体験の受け入れや、団地の総会で地域密着サービスの説明をした後、ホームの見学に来ていただいたり、入居者が団地の花や庭を見に散歩に出かける等交流が一段と深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域公民館で行われているサロンにも声を掛けて頂き参加した。地域清掃活動にも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症状の実態や地域との関わり、グループホームという性質と意義も少しずつ理解頂いているかと思う。	地域住民代表の参加がきっかけとなりに、守秘義務の同意書を交わしている。2ヶ月毎に地域交流センターで開催され、ホームの現状や行事等の報告の他、地域の高齢者の問題や自治会と合同の防災訓練の提案等が地域の方から出され、グループホームを含めた地域の問題が議論されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には同席して頂き、市企画の施設マネージメント講習や、あんしん介護相談会議にも出席し、話し合いの機会がある。	市主催の講習会の参加や職員体制・防災体制のアンケートに協力したり、市職員がホームの避難訓練に参加するなど、行政からの訪問も多く、日頃から相談やアドバイスをいただく協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内ケア会議でも課題として、拘束に繋がらないケアを見極め、入居者の方が伸び々とした生活の支援にと努めている。	夜間以外は施錠をしていない。身体拘束禁止マニュアルを活用して、内部研修を実施している。研修では、窓の施錠、言葉かけ、ベットの柵等の具体的な事例で検証し、理解を深めるようにしている。外出傾向のある入居者は、シグナルを把握し、寄り添って一緒に歩いているが、地域の方や派出所に見守りや通報をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	所内学習会にて、職員の理解に向け検討しあって、各自が研鑽している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内学習会にて、管理者より制度についてマニュアルを用いて行った。成年後見制度の活用は今の所ない。	成年後見制度や日常生活自立支援事業の資料を整備し、廊下にポスターを掲示して、入居者や家族に説明できるように準備しているが、これまで活用された方はいない。	入居契約時に制度の説明を行い、記録を整備していただきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたって本人、家族と共に重要事項説明書辞時間をかけ行っている。分かりづらい点等の質問は気兼ねなくして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の家族により意見や要望の際は、職員間も共有した上で運営者にも伝達し、反映に努めている。	運営推進会議に入居者や家族の参加があり、意見箱は玄関に設置している。毎年のクリスマス会の開催時に家族会を開き、意見を伺う機会を設けているが、日頃から家族の訪問が多く、気軽に話が出来る雰囲気がある。家族から通院支援の相談や衣替えの依頼等があり支援している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれの職員の感性を大切にし、運営者へも相談や報告をしながら反映へと結びつけている。	新規採用職員は1ヶ月母体施設で新人研修後、法人内の配属があるが、運営者はグループホームの特性を配慮して配置している。定例会議で職員の気づきが報告され、尿取りパットの置き場所等の変更が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れている。目標設定の達成により賞与・昇給に反映、やりがいのある職場作りを目指している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用はハローワークを通して行っている。各職員の能力を活かせる様な環境作り努め、検診による健康面やメンタル面で働きやすい職場作りに取り組んでいる。	新人研修プログラムを作成し、研修を実施している。人事考課の運用があり、職員の能力開発や研修参加を勧めている。昼休みは交代で時間差で取る様に工夫している。定期健康診断は年二回実施している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	所内会議で、マニュアルを利用したり、実践的な内容で啓発した。	高齢者虐待防止マニュアルを活用し、内部研修を実施している。具体的な事例で「待って」も虐待になるなどミーティングで話し合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度の活用により、目標達成するよう努めている。所内外の研修はスキルアップを目指し、自発的な参加と個々の感性を活かす工夫をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「あんしん介護相談委員」「運営推進会議」「SOS徘徊ネットワーク」他研修にも参加しており、他事業所との相互的な見学も予定している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により総合的な内容を把握するよう努め、職員との馴染みの関係も自然体で安心されるように取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、家族が不安と感じられている内容や思いを受けとめて、本人は勿論、家族と当施設の信頼関係を大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって本人、家族の思いやこれから必要とされる生活での要望を受容し、柔軟に対応し多面的な支援に心掛けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々の得意分野や、残存能力が発揮出来る場面を多く作る工夫と、本人の意思決定重んじながら生活されるよう援助している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望は電話でも、面会時でも伝えて頂いている。本人と家族が離れて暮らしている中で、互いをおもいやり慕う気持ちを、持ち続けられるられる支援へと努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仏壇を置かれている方がおられ、月命日にはお寺からお参りに来て頂いている。他、長く続けている詩吟の会に参加されたり、自宅で利用していたアロママッサージを受けておられる方もおられる。	センター方式でアセスメントを実施し、生活歴、職歴、趣味、苦手なもの等把握している。家族と通院時外食を楽しむ方や、入居前の自宅での仲良しだった友人宅の訪問を支援し、定期的に訪問を継続している入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最年長の98歳の方を中心に、互いを思いやる気持ちは皆が持っておられ、手を繋いで行動を共にされている方もおられ、和やかな雰囲気である。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	既往症の悪化での退居者は、医療連携により自宅での生活をされている為訪問をしたり、本体の特養に入居された家族からは合同行事の際の写真を撮って頂き交流があり、他施設転居の家族からの訪問もあり現施設の近況報告を受けた		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式でアセスメントを実施している。本人本位に検討している。	アセスメントで把握した入居者の思いを検討し、介護計画に反映している。あんしん介護相談員や傾聴ボランティアの協力を得て、言葉にできない入居者の思いを、表情や行動からサインを汲み取るよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣を考慮し、月命日のお参りの支援、訪問マッサージの受け入れ等入居により大きく環境が変わらないように、本人や家族の意向を重視している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で体調異変事は、職員間で状況を把握に努め、検討し対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き現状に応じた内容を検討する事と、家族からの意向も取り入れた計画作成に努めている。	毎月の定例会議で担当制を活かして職員の気づきを検討し、計画に反映できるように努め、個別性のある計画を作成している。担当職員が評価を記入し、全員で共有しているが、現状に即した計画作成の目標の立て方が不十分である。	モニタリングで、提供しているサービスの状況や目標の達成状況を把握し、入居者の変化に即した目標を立て計画に繋がるような検討をお願いしたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の訴え、希望等々会話内容も記録している。情報交換は申し送りノートと業務日誌への記入を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの通院介助の要望や、体調異変事は医療機関への早急対応を行ったり、入居者の方との会話で買い物や、外食、ドライブを行ったりと柔軟な対応にと努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古くからの宗教繋がりの知人の面会で、自宅で生活されていたリズムを崩さない様支援する事に努めたり、傾聴ボランティア訪問により活気のある生活に協力して頂いている。これから他分野の取り入れで楽しみを増やせたらと思っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの継続で受診の方、認知症状の進行によっては、もの忘れ外来も受診。複数の受診も支援し、かかりつけ医への相談も積極的の行っている。	受診の同行は基本的に家族にお願いし、要望があれば、かかりつけ医の受診や、希望の専門医の受診を支援している。前年の外部評価の提案を生かして、受診記録ノートを作成し、受診結果は家族面会時や、必要に応じて電話で報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診、往診により体調面を細やかに報告している。緊急時は本体の看護師に応援の依頼をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の受診により相談しやすい関係になっている。長期入院によって入居者の方が退居へとのリスクがあることも伝えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、現在の当施設では支援が出来ない事の話を、順序立てて説明を行っている。	3月に末期癌の入居者を自宅で看取られることを選択された家族には、時々自宅を訪問し支援している。現時点では母体法人のターミナルケアの方針に添って連携し、重度化した場合は母体特養ホームや医療機関への住み替えを支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を行っていない為、本年度中にも受講計画を立て実施したい。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民との会合での話し合いがあり、相互間での協力を得る事が出来た。避難訓練は入居者と一緒に、当施設独自で行った。	災害マニュアル・緊急連絡網を整備し、消火器を設置している。法人全体とグループホーム個別で避難訓練を実施している。地域住民代表との交流が進み、来春には、グループホームと消防署、地元消防団、自治会合同で防災訓練を実施する予定である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報規定による個人情報の利用目的を明記した書面をホーム内に掲示している。入居時、本人と家族には説明し同意を得てる。日々の生活の中では、尊びの念を以てケアする事を啓発している。	運営規程・契約書に守秘義務を明記し、個人情報の保護やプライバシーの保護について内部研修を実施している。職員の入居者に対する言葉かけや対応は穏やかで、ひとり一人の誇りを尊重している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活の中で、本人の意思を尊重するという事に自己選択・決定の援助に努めている。職員は個々の希望を傾聴する環境作りを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や表出や自己決定の支援に匹敵する事だが、いつも穏やかであるとはいかず、感情の起伏や、帰宅願望が強い時等もある事を察し、その方に合った援助を心掛け、寄り添う時間を大切と思い日々努め[illegible]		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用され、中にはパーマの利用者もおられる。毎日の習慣でお化粧も自己にてされる方や毎回外出時には、お化粧や洋服のコーディネートの支援。衣類の買い物も積極的に行かれ、気に入った洋服を購入し喜ばれる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	半数の方は自ら食事の下拵えや配膳、引膳のお手伝いをして頂いている。職員も一緒に同じ食事を頂き、食の楽しみを分かち合っている。誕生日にはご本人の希望を取り入れ喜ん頂いている。献立作りは、皆さんに見ながら作成している	入居者が食事の下準備やテーブル拭き、下膳や食器洗いに生き生きとした表情で取組み、食事を楽しんでいる。時には、ドライブを兼ねて外食に出かけることもある。山菜おこわ作りが得意な入居者は大量に作って、配ることを楽しみにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食，食間、夜間帯など水分補給の提供に心掛けている。Dr指示のOS－1服用者もおられる。個々の状態に合った調理法（刻み・ミキサー）の提供。野菜を多くバランスを考慮したメニュー作りや入居者の希望を取り入れ作成している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自己にて行われている方もおられるが、殆んどの方は、声掛けや介助にて行っている。異変事は訪問歯科医へ連絡し、治療や指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインである行動・言動も察知し、一日の排泄パターンも把握し援助を行っている。自立に向け、その方の時間に応じてオムツやショーツ等の使い分けをしている。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけは羞恥心を配慮し、安心できる排泄の支援を行っている。入居者同士が誘い合ってトイレに一緒に行くことで、昼間は自立できている入居者もいる。意識消失がある入居者には、夜間はポータブルや状況でオムツを使用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では線維の多い食物や乳製品のヨーグルト・ヤクルト等を摂り入れ対応している。日中は軽体操や散歩で体を動かして頂いている。便秘が続く方には、かかりつけ医への相談を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴でも本人の意思確認を行い援助している。浴中はコミニュケーションを取りながら気持ち良く気分転換して頂けるように努めている。現在は午後の入浴だが、希望される場合はその方が納得される様に応じたい。	週3～4回、午後から入浴を支援している。入浴拒否がある入居者には、状態を見ながら、その方に合った声掛けで時には職員が「一緒に入りましょう」等、対応を工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方に応じた、落ち着かれる場所で休んで頂いている。夜間は充分な眠りが取れるように、睡眠パターンを職員間で把握する事に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、用法・用量の理解に努めている。与薬変更時には必ず記録し、申し送っている。服薬による体調変化は、早期に発見できるよう観察を常に行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームで自分を出せる役割を見出すことで、「出来る事の達成感・日々の充実感」を毎日の生活で感じながら楽しみとなられる様にと支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は食材の買物やドライブの支援を行っている。個別には希望により衣類・嗜好品の買物も援助し、全員参加の外出先は皆で話し合って決定した。地域の行事や運営推進会議により顔馴染みになり散歩に出掛けている。家族の協力で詩吟の会や、古くからの知人とも外出されている。	昼食後にお散歩を日課にしている入居者方は、気分転換によって多動が回避できている。食材の買出し、好みの洋服の買い物、個人の庭の見学等、日常的に外出を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しく、殆んどの方はホームで預かっている。買物時は財布を預けると正確に支払われる方と、病院での支払いが難しい方がおられる。お一人、預けている事の途中確認で、その都度安心されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用件がある時でも自ら電話を掛けられる事はない。家族の声にて安心される方には職員が支援している。手紙は遠方の息子さんやお孫さんから届くが、返事を書くのが面倒がられた。キーパーソンにも郵便物のお知らせをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々がリビングに集まり、同じ時間を過ごされる事で安心が持てるようである。台所は対面式なので調理中も対話が出来き、リビング壁には共同作業で季節に応じた貼り絵をし作品を掲示。最近夜間トイレが分かりづらくなっている方用にと、目の高さに合わせた表示板を下げる配慮をしている。	外から玄関に続くアプローチには、緩やかなスロープと手すりが設置されている。玄関ホールから共用空間はバリアフリーで壁際には手すりが設置されている。広々とした明るいリビングは職員と入居者でクリスマスの飾りつけがなされている。リビングから中庭が見え、入居者は終日ぬり絵をしたり気に入りのソファでおしゃべりし寛ろいでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午睡が必要な方、お一人の時間を持ちたい方等は思いのままに自室で休まれたり、リビングのソファーで休まれたりされている。中には自室に入居者の方や職員が訪問すると、畳で一緒に横になっての会話が楽しみの一つになっておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、家族写真、お孫さんからの手紙等を飾られている。ご家族とご本人により考えられたお部屋作りや、四季折々のほのぼのとした置物でお母様を癒しておられたりと家族の協力も大きい。	各居室の入り口には個性的なネームプレートを掲げ、入居者の生活歴・身体状況に合わせフローリングにベットや、畳敷きにお布団で休まれる方等、好みに応じた部屋作りがなされている。自宅で使用していたタンスや鏡台、お仏壇等が置かれ、愛用の籐椅子など、居心地よく過せるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ででも目的の場所へ行け、その事が自信となるよう居室入口にネームプレート、トイレ前にも分かり易い様に目印を掲げている。		